

# 第11回国際法医放射線画像学会 (ISFRI: International Society of Forensic Radiology and Imaging) を開催して

福井大学 医学部 法医学 | 兵頭秀樹

## はじめに

2022年5月12~14日に学会テーマ：research & educationとしてISFRI annual meetingを開催する機会を得ましたので、紙面をお借りしてどのようなものであったかご紹介いたします。

主催を打診されましたのは2019年5月のISFRI annual meeting in Berlinまで遡ります。現地にて、歴代会長のMichael Thali先生 (Zurich)・Chris O'Donnell先生 (Melbourne)・Lars Oesterhelweg先生 (Berlin)から直接担当できないか、とお話をいただきました。私が担当できない場合には他の日本の先生にお願いすることも併せて打診されておりました。当時は北海道大学法医学 准教授であり、国際学会を担当することはおこがましいという意見があり一旦は辞退させていただいておりましたが、国内の多くの先生からご支援をいただき、翻意を促され、主催させていただくこととなりました。関係の皆様には大変ご迷惑をおかけしましたこと、この場をお借りしてお詫び申し

上げますとともに、ご支援いただきました諸先生方に感謝申し上げます。

## ISFRI開催に至るまで

準備を始めたころはコロナパンデミックが起きる前であり、アジア初のISFRIとして準備を進めておりました。海外の会員に、日本こそ法医放射線画像について情熱をもち真剣に取り組んでいるメンバーがたくさんいることを知っていただきたい気持ちがありました。そこで、東京大学法医学ならびに千葉大学法医学のご支援をいただき、日本で最もアクセスのよい東京を開催会場とし(図1)、屋形船での東京湾クルーズや、池袋の高層ビルでのGala dinnerを準備しておりました。しかし、2019年12月に始まったコロナパンデミックのため、様々な学術集会在延期/中止となり、ISFRIの年次総会も前々年(2020年)がweb poster presentationに、前年(2021年)がweb開催となりました。私が担当する2022年の会も感染状

況により中止もあり得るという状況が続き、まっとうな準備ができる状況ではありませんでした。当時はまだ“web開催”ということに慣れておらず、ましてや主催するなど、すべてが手探りの状況から



図1 ISFRI 2022 poster

一目で東京開催がわかるデザイン。スタッフが製作くださいました。

計画しなければならず、途方に暮れる思いを抱き始めておりました。幸いなことに、web配信による学術集会を担当した

ことのある日本のスタッフと巡り合うことができ、学会裏方を担当して下さることを快諾いただくことができました

(図2)。そこで、仮にweb開催になったとしても発表者の顔が見える大会にしたいと考え、web配信+mp4プレゼン+オンデマンド配信、という形式で学会準備を進めることといたしました。開催まで半年を切ったところに、やっと感染が下火になった場合のことも考えられるようになり、最終的には少人数という制限はあるものの現地で発表が可能なhybrid形式+オンデマンド配信で学会を開催することとなりました。

残念ながら、国の渡航制限のため海外の先生が東京に全くこれない、特別な国際学会となりましたが、1年4か月前から3月毎に開催していたISFRI Webinarで学会気運を高めていたため、時差にもかかわらず多くの海外からのライブアクセス、ならびに6万ビューに迫るオンデマンド閲覧をいただきました(図3)。RSNAに習い、発表者の学会参加費を無料としましたので、52演題がmp4 web presentationとして登録され、たくさんの若い研究者に参加していただくことができ、新しい



図2 製作スタッフと(最終日開始直前)

華美にならず、参加者に製作側のひとのぬくもりを感じることができる進行を目指しました。FUJIFILM Healthcare Corporation様からセッション間の動画をご提供いただきました。



図3 Web access集計

5月には5万8千ビューとなり、live + on-demandにより多くの方が参加していただきました。国別では日本、アメリカ、オーストラリア等、30か国からのアクセスが確認できました。